

2022.11.17



地域日本語支援ニュース こだま 第 425 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～

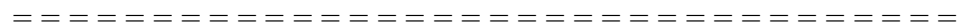


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■私たちの挑戦：「多文化×芸術」■

2022年8月、広島県安芸高田市で、日本、中国、ネパールなど数カ国、多様な背景をもつ高校生28名が、舞台上でひとつになって自分自身を表現する創作作品（パフォーマンス）を発表しました。3泊4日の合宿をふくむ「多言語・多文化交流『パフォーマンス合宿 in 広島』（ひろしま PCAMP）」です。主催された公益財団法人国際文化フォーラムの長江春子さんに詳しくお伝えいただきます。

文末の記録動画 URL からはことばの壁を越えて、生き生きと交流する4日間の活動状況をご覧になれます。



広島の高校生たちの We are from!

シニア・プログラム・オフィサー

長江 春子

公益財団法人国際文化フォーラムは 1987 年に設立された財団で、これま

で日本と諸外国の青少年の相互理解を図るために、交流を通じて海外の日本語教育や日本の外国語教育、及び多様な文化への理解を促す事業に取り組んできました。近年では、海外につながる子どもが日本国内で増えるにつれて、多文化共生の促進にも力を入れています。

◆財団設立 30 周年記念事業としてスタート

国際文化フォーラムは、財団設立 30 周年記念事業として多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿」を企画して以来、年に一回東京で実施してきました。「パフォーマンス合宿」は、多様な言語的・文化的背景を持つ日本各地の高校生が、演劇をはじめとする芸術表現活動を介して交流し、協働して作品をつくる過程を通じて自他への理解を深め、ありのままの自分である自信を取り戻し、共生のマインドが育まれる「場」となっています。コロナ禍に見舞われた 2020 年からはテレビ会議システムを利用して実施するようになり、海外からの参加も受け入れたり、VR（バーチャル・リアリティ、仮想空間）を取り入れたり、年に複数回実施したり、ステージでパフォーマンスを発表する代わりに映像作品を制作・上映したりと、その幅を広げてきました。

2022 年は社会全体がウィズ・コロナを模索する中、国際文化フォーラムも「パフォーマンス合宿」の対面開催にチャレンジすることになり、実現したのが 8 月の多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿 in 広島」(ひろしま PCAMP) です。Performance (パフォーマンス) の P と CAMP (合宿) を組み合わせ、地域名をひらがな表記にして愛称としたのは、多様な言語的・文化的バックグラウンドを持つ高校生たちに愛着を持って呼んでもらいたいからです。

◆なぜ広島で？

「なぜ広島しかも安芸高田市を開催地に選んだのか」とよく聞かれますが、2019 年 3 月に東京で実施したパフォーマンス合宿にはじめて広島・安芸高田市在住の高校生が参加してくれたことがきっかけです。フィリピンで生まれ育ったその高校生は、小学校 6 年生のときに安芸高田市に移住し、安芸高田市国際交流協会が運営する学習支援教室で日本語を学んだそうです。そして、長年支援教室で彼を教えた日本語教師の方の推薦とサポートを受けて合宿に参加してくれました。折しも国際文化フォーラムは東京で

の単独主催だけでなく、地域の NPO との共催を模索し始めた頃で、上記の日本語教師を通じて安芸高田市国際交流協会とつながったわけです。そして、2020 年に安芸高田市国際交流協会と「パフォーマンス合宿 in 広島」を共催する準備を始めたところ、コロナ禍で中止を余儀なくされ、このたび 3 年越しの実現となった次第です。

実は 2020 年に地域版合宿を企画した当初は全国の高校生を対象とする予定でした。しかし、「ひろしま PCAMP」は広島県内の高校生を対象を絞りました。地域の多文化共生ニーズに寄り添った PCAMP にしたいと考えたからです。将来的には、PCAMP で体験していただいたことが地域にさまざまなかたちで浸透し、地域の皆さんの活動に一層生かされていくことを願っています。そして、ほかの地域にも積極的な協力者が得られれば、「ひろしま PCAMP」モデルを各地に広げていこうと考えています。

◆「ひろしま PCAMP」の 4 日間

安芸高田市国際交流協会をはじめ、呉、福山、東広島の多文化共生支援や地域日本語教育に取り組む各協力団体のみなさんの広報協力のおかげで、「ひろしま PCAMP」には中国、日本、ネパール、バングラディッシュ、フィリピン、ブラジルなどさまざまなバックグラウンドをもつ 28 名の高校生が参加してくれました。

初対面でことばや文化の違いがあるなか、3 泊 4 日（実質の活動は 2 日半）という短い期間中、一般の方にも見ていただくパフォーマンス作品を創り上げることは容易ではありません。国際文化フォーラムが派遣した演出家、俳優、振付家を含む 5 名のファシリテーターが高校生の交流と創作に伴走してくれました。ファシリテーターたちは高校生一人ひとりを尊重し、理解し、信じて、高校生たちがもともと持っていた力を引き出し、輝かせました。そのおかげで高校生たちは、助け合いながら芸術活動を通じてことばと文化の壁を軽々と越え、多様なアイデンティティを生かして芸術活動を豊かなものにしてくれました。その結果、8 月 7 日の成果発表会の大成功につながったのです。

◆参加者や保護者の声

「演劇は初めてだったけどこのメンバーだから楽しくできた」と発表会

後の振り返りで高校生が述べた感想からも、参加者たちは作品づくりを通じて深い絆（きずな）で結ばれたことがわかります。そして、多くの高校生が終了後のアンケートに「表現力が上がった」「コミュニケーション力が上がった」「意見を言うことが恥ずかしくなくなった」と答えました。一方、発表会にいらした保護者の方は口々に「PCAMP 期間中子どもがメールで『すごく楽しい!』と言っていたからうれしい。参加してよかった!」とおっしゃっていました。また、参加した S くんが帰宅後お母さんに「(PCAMP では) ちゃんとした日本人のふりをしなくてもよかったので、心がりラックスできた」と語ったそうです。海外につながる高校生にとっても「ありのままにいられる」安心安全な場であったことがわかり、担当者としてほっとしました。

「ひろしま PCAMP」のプログラムの詳細な説明、活動の様子を記録した写真、メイキング映像や発表作品（ノーカット）を含む記録動画は、国際文化フォーラムのウェブサイトでご覧いただけます。

URL : <https://www.tjf.or.jp/performance/1.html>
